



小学校特殊学級におけるIEPに関する事例研究(2) : 個に応じた指導の充実を目指して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学教育学部旭川校特殊教育特別専攻科障害 児教育研究室 公開日: 2017-07-27 キーワード: 作成者: 谷川, 忍, 植竹, 敦子, 土谷, 智子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00008104

小学校特殊学級におけるIEPに関する事例研究(2)

一個に応じた指導の充実を目指してー

A Case study of the Education Plan of Individualized Learning (IEP)
in a Special Class at Kashiwano Primary School in Hakodate, 2000

谷川 忍(Shinobu Tanikawa)* 植竹 敦子(Atsuko Uetake)** 土谷 智子(Tomoko Tsuchiya)**

函館市立柏野小学校の「たんぼぼ・ひまわり学級」では、IEPの手法を取り入れた学級経営を行って、まる2年が過ぎようとしている。本紀要第19号では、個別の指導計画をどのように作成し、実践してきたのか、更には個々の指導目標を達成するために個別学習『一人でべんきょう』をTEACCH的な手法に学びながら、どのように進めてきたかについて報告した。

今年度は、より子供たち一人一人のニーズに応えられる方法を探りながら、昨年度の実践をもとに見直しを図ってきたこと、また、保護者や校内の共通理解と協力を得ることによって実現したバレー学習という新たな試みについても報告する。

試行錯誤を繰り返しながらの拙い実践であり、課題も山積みではあるが、子どもたちの確かな成長と変容に勇気づけられているところである。

(キーワード：個別の指導計画 父母との連携 職員の共通理解 構造化 バレー学習)

1. はじめに

旭川特殊教育特別専攻科情緒障害児教育研究室で1年間の研修を終え、谷川が函館市立柏野小学校の特殊学級「たんぼぼ・ひまわり学級」の担任になって2年が過ぎようとしている。新卒3年目の土谷、そして今年度は市内の中学校特殊学級において実践を重ねてきた植竹と共に、父母のニーズに応え、個性豊かな10名の子どもたち一人一人の教育の最適化を目指して、日々忙しくも楽しみながら実践に取り組んでいるところである。

昨年度報告した「個別の指導計画」「TEACCHに学んだ個に応じた試み～スケジュールの構造化・物理的構造化・一人でべんき

ょうの時間の設定」に修正を加え、今年度も継続して進めてきた。また昨年度からの課題であった、本学級の児童のニーズに合わせて、個別の学習「一人でべんきょう」と、いわゆる生活単元学習をどう関連づけていくかということについて、今年度も試みた。

更に、校内の全職員、保護者・地域との連携という観点からバレー学習の試みについても報告する。

2. 「たんぼぼ・ひまわり学級」の概要

函館市立柏野小学校の「たんぼぼ・ひまわり学級」は、知的障害特殊学級である。

今年度は10名(1年生1名、2年生2名、4年生1名、5年生4名、6年生2名)で、児童の概要については図1の通りである。

以下に今年度の学級経営計画について簡単に紹介する。

◎学級目標

* 函館市立柏野小学校、特殊教育特別専攻科7期(情緒課程第18期)

** 函館市立柏野小学校

本研究は平成12年度文部省科学研究費基礎研究B(1)課題番号11410067の一環として行われた。

かながえる子：おはなしをしっかりときこう。
 がんばる子：さいごまでやりとげよう。
 やさしい子：ともだちとなかよくしよう。
 けんこうな子：げんきよくうんどうしよう。

○経営方針

- (1) 一人一人の児童の心身の障害の状態及び特性の把握に努め、個々の発達課題に応じた指導の充実を図る。
- (2) 学校や地域の特性を生かした教育の効果的推進を図る。

○今年度の重点

- (1) 児童一人一人の多面的な実態把握と総合的な児童理解。
 - (2) 学校や地域の特質を生かした体験的活動の充実。
 - (3) 個別の指導計画をもとにした個に応じた指導の充実。
 - (4) 校内交流教育の実践。
 - (5) 校内共同研究への積極的参画と特殊教育理解の充実。
 - (6) 市内特殊学級との交流教育の推進。
 - (7) 家庭との連携を密にした指導の充実。
- 今年度の児童の概要は図1の通りである。

(図1) 児童の概要

No.	名前	年	性	障害種別
①	Y, H	1	女	自閉的傾向
②	I, S	2	女	ダウン症
③	R, M	2	男	知的障害
④	T, S	4	男	知的障害、不登校傾向
⑤	E, O	5	女	知的障害
⑥	R, O	5	男	自閉的傾向
⑦	M, S	5	女	ダウン症
⑧	H, M	5	男	知的障害
⑨	S, I	6	女	知的障害
⑩	A, Y	6	女	自閉的傾向

3. 今年度の実践

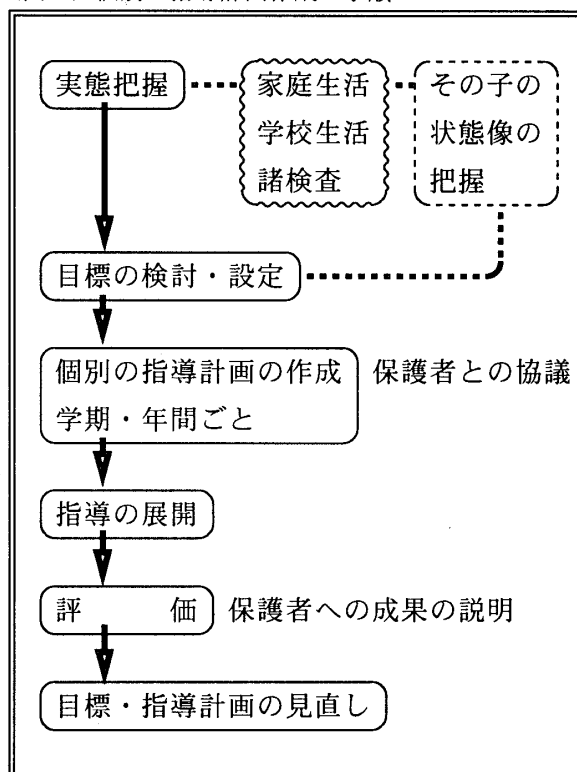
(1) 個別の指導計画の取り組み

1) 個別の指導計画作成の手順

4月に学級がスタートして一番始めに手がけ

たことは「個別の指導計画」の作成である。昨年度作成した様式に若干手を加え、学期目標を提示し、指導する私たち、保護者や校内の先生方にも、個々の課題が一目でわかるようにした。出来るだけ親のニーズを反映させる手だてを取り、学校としてできること・家庭との連携の中でできることを整理しながら、個別の目標を設定した。作成の手順はは図2に示した通りである。なお、出来上がった個別の指導計画の例を資料1に示した。

(図2) 個別の指導計画作成の手順



2) 計画の見直しと修正、評価

今年度の個別の指導計画は、個々の児童の課題とそれを受けての今年度の目標、更に具体化された学期の目標の3段階とした。

当然のことながら、指導をしていく中で、ある目標については到達することができ次の段階へ、またある目標については更に細かなステップに分けて指導しなければならない場面が出てくる。月に1度の定例の懇談会や毎日やり取りしている連絡ノートの中で常に保護者と情報交換しながら、その都度一緒に目標の見直しや修正を図っている。

学期末には保護者共々、学期の目標について

どれだけ達成できたかを評価する機会を持つ。

また、12月に設定された個人懇談会の折りには、後述する個別学習課題の説明・評価と共に、個別の指導目標についても評価し、見直しのための話し合いを持っている。

3) 成果と課題

指導計画というものは、作りっぱなしでは意味がない。いくら立派な計画を立てても、それに基づいて、実践し、見直し、評価し、そして何よりも目の前の子供の次の成長に資するものでなければならない。個別の指導計画を試みて2年目、まだまだ荒い計画であるが、作りやすく修正しやすいものを作ろうということでスタッフの共通理解を図ってきた。

作成のために一人一人の子供をよく見つけ、スタッフ間でよく話し合い共通理解を持って子供たちそして保護者に対応していけることが一番の成果と考える。またその子に今何が一番必要な力なのかを保護者と共に考えていくことによって、自ずとどんな教材で、どのような方法で行うのが適切かがお互いに見えてきて、家庭とも連携を取りながら、その子の成長の手助けが出来ることもまた大きな成果である。また昨年度末においては、卒業生の進学先の中学校にこれまでの指導経過がわかるような資料を提出できた。今後、更に指導計画と指導記録を継続的に作成していくことにより、よりこれからの指導の助けとなるような資料が出来上がっていくと考える。今年度、入学してきた女兒はつくしんぼ学級からの入学であったが、大変きめ細かな指導計画と指導記録が申し送りされ、指導に大変役立った。早くこのようなレベルに追いつきたいと考える。

課題としては、作り易さを重視したがために昨年度と同様にやはりもっときめ細かな項目を設けて個々の子供たちのニーズに応えていかなければならないということである。

(2) TEACCHに学んだ個に応じた取り組み

1) スケジュールの構造化

朝の活動の構造化については概ね昨年度と同

様であるが、若干の修正を加えているのでここに報告する。

登校してから朝の会に至るまでの時間は、教師と児童、また児童相互がお互いにコミュニケーションを取る絶好のチャンスである。ところが、自閉的な傾向を持つ子供たちにとっては、次に何をしたらよいのかわからないことが不安を煽り、ジャンパーを脱いで所定の位置に掛けたり学習用具の準備をしたり提出物を出したり朝の会のために椅子を並べたりという一連の行動が出来ないままに常同行動を取ったりパニックになってしまう様子が見られ、もっとコミュニケーションを取る時間を大切にしたいという思いから試みたことである。

更に、朝の会→朝の仕事→朝の学習（スケジュール確認）そして学習活動への流れがスムーズにいくように日課表を図3のように修正した。

(図3) 日課表

	月	火	水	木	金	土
	身 辺 処 理					
1	朝の会 (朝の会・朝の仕事)					生活
2	朝の学習 (スケジュール確認他)					生単
	休 憩					
3	一人で	パレ	一人で	体育	一人で	自立活動
4	勉強	習	勉強	音楽	勉強	
	給 食					
5	国語	音楽	図工	算数	国語	
6	委員会	クラブ				

長期の休みのスケジュールについては今年度も保護者からの要望が多く、スケジュール作成のためのアンケート用紙に若干修正を加えながら、継続して実施してきた。長期の休みを、親子で向き合っじっくりとその子の課題に向かうことができるいいチャンスと捉え、子どもたちが休み中の1日の流れを理解しやすいように、こちらで作ったスケジュール表をもとに、拡大したり絵入りにしたりカードにしたりと子どもたちに分かりやすいような手段をそれぞれの家庭でとってもらったようにした。冬休みのスケジュールの例は資料2に示した通りである。

2) 個別学習『一人でべんきょう』

a) 今年度の取り組み

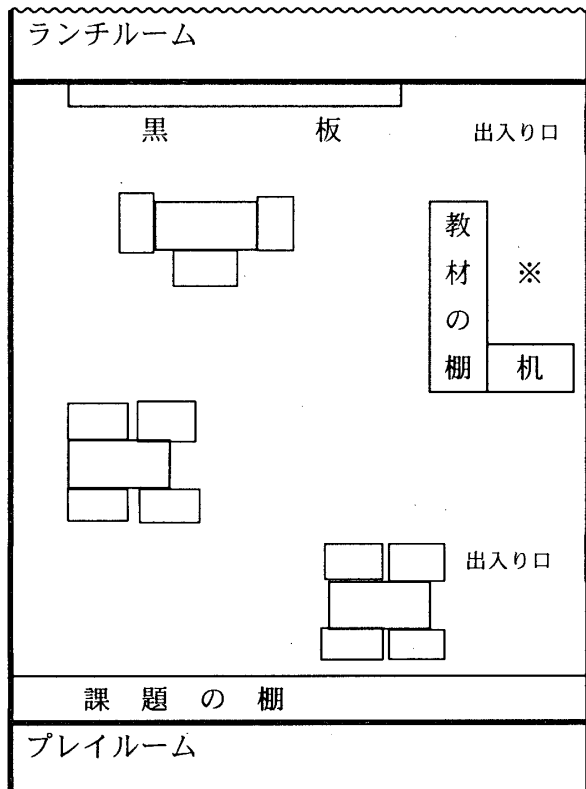
昨年度は、学級の児童が大幅に増え、それまでの個別の対応では、子供たち一人一人にうまく対処できなくなったことにより始まった『一人でべんきょう』であったが、実際に始めてみると次のような大きなメリットがあった。

- ① 集中して自主的に自分の課題に取り組むことができる。
- ② 第3課題までの課題に軽重をつけることにより、教師が担当しているグループの成員に、計画的に密に関わることが出来る。
- ③ 学習の始まりと終わりがはっきりとすることにより、不安を持たず、見通しを持って学習に臨める。

そこで今年度は、スタートの時点から、『一人でべんきょう』を週3回6時間実施することにした。

b) 学習の場の改善

(図4) 教室の様子



今年度は思い切って、教室の真ん中にあった小上がりをプレイルームへ移動し、学習のスペ

ースを広くとった。(図4) このことにより他のグループとの距離を取ることが出来るようになった。教師は自分のグループの中心に入るようにし、場合によっては適切な支援をしたり、指導をしたり出来るようにした。(図の大きな長方形、小さな長方形は児童の席) ※印は意図したわけではないのだが、結果的にカームダウンエリアのように使う子供たちが出てきた。ちょうど棚の陰になって周りの視線が気にならない場所であり、体調が悪かったり友達や先生とトラブルを起こして学習活動に集中できないような時に、全員ではないが、何名かの子供がそこへ行き、気持ちが落ち着くと戻ってくる場所になっている。

c) 『一人でべんきょう』と生活単元学習を関連づけた一例(指導の実際)

「一人でべんきょう」の取り組みと共に本学級では、生活単元学習に力を入れて取り組んでいることは、本紀要19号で述べている。昨年度は、「クリスマスお楽しみ会」という生活単元学習に関連させて、自分に出来る準備をしようというめあてで、教科的な課題にとどまらず、コミュニケーション課題や指示理解、目と手の協応の課題、微細運動や粗大運動までも含めて、子供たちのニーズに合わせてながら準備した。

今年度は、「楽しいおやつづくり」という生活単元学習の中で、「ひとりで勉強」の時間を利用して、子供たち個々に身につけさせたいスキルを整理して実践した。(資料3参照)

3) 成果と課題

スケジュールの構造化(登校してからの朝の一連のスケジュールの構造化と長期の休みにおけるスケジュール)については、19号でも述べたが、子供たちが落ち着いて朝の時間を過ごすことが出来るようになってきたことが大きな成果といえる。見通しがつき、何をすればよいのかがわかりやすく提示されるということが、自閉症以外の子供にとっても大変有効である。

個別学習「ひとりで勉強」についても、昨年度課題となっていたいくつかのことが改善され

つつある。その1つは、学習の場の改善である。小上がりがなくなって、グループ毎のスペースが広く取れるようになったことにより、前にも増して集中して課題に取り組むことが出来るようになった。もう1つの教材の蓄積については、継続してきたことによって、少しずつ「たんぽぽ・ひまわり学級」の財産が増えつつある。まだまだ、週3日の「ひとりで勉強」の準備は大変ではあるが、昨年度に比べれば余裕が出てきた。

しかし新しい課題もある。それは、今後今よりももっと児童数が増えた時にどう対処していったら良いのかということである。今年度、多くの参観者が本校の個別学習を見に来て下さった。来年、新1年生になるお子さんを持つ保護者の方がほとんどであった。本学級の個別学習や構造化など、個に応じた取り組みを評価して下さるのは本当に嬉しい限りなのだが、実は今のこの児童数でこのスタッフの人数だから、出来ることでもある。来年度以降、児童数が増えた時にどうやって子供たちそして保護者のニーズに応えていったらよいか、もっとも大きな課題となりそうだ。

(3) バレエ学習の取り組み

1) きっかけと体制づくり

昨年2月、本学級の保護者の中に市内で「バレエ研究所」を開いている方がいて、その方から、子供たちにクラシックバレエを体験させたいという願ってもないお話があった。何回か実際にやっていただいて、子供たちの楽しそうな笑顔や楽しみながら体を動かすその様子を見て、ぜひ継続させていきたいと考えた。そこで今年度は年度計画の中に組み入れながら週1回毎週火曜日の3・4教時に本校の多目的室を使って「バレエ学習」として位置づけた。本校職員の理解を得、保護者の方にも一緒に参加してもらいながら、子供たちと共に体を動かす機会となっている。

2) バレエ学習の内容

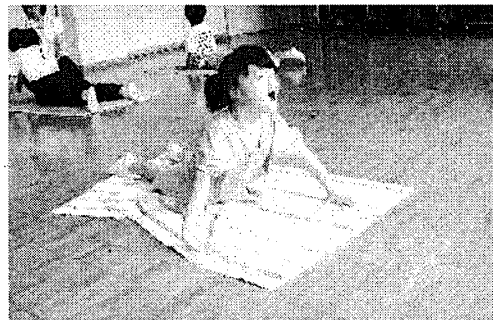
音楽に合わせたバレエはもちろん柔軟体操や

バランス運動、更には基本の運動の姿勢良く立つ、歩く、スキップする、走る、跳ぶ、しゃがむ、這うなど様々な運動を行っている。

V字バランス



上体そらし



さあ、踊ろう!



3) バレエ学習の成果

今回は身近なところに素晴らしい指導者がいて下さったことが幸運だった。普段苦手な柔軟体操やストレッチなども音楽に合わせて楽しくできる。また何より子供たちの表情が豊かになってきたことが実感された。特に5年生のAちゃんの変容がめざましかった。言語表出や指示理解、コミュニケーション能力の高まりが見られた。

4. おわりに

柏野小学校「たんぼぼ・ひまわり学級」での IEP そして TEACCH に学んだ実践も 2 年目を迎え、ようやく柏野小学校のカラーが出てきたような気がする。試行錯誤を重ねながらの実践は保護者の方々にとって、さぞやきもきされたことだろうと思う。何とか私たちと子供たちそして保護者がいい関係でいられるのは、紀要の 18号の中で述べたようにやはり、課題を共有（適切な互いの働きかけ）してきたからに他ならないのではないかと改めて感じる。

昨年に続き、現場に戻ってから 2 度目の論文である。昨年度、今年度と読み返してみても自分たちがやってきたことを整理する意味でも 1 年に 1 度こういう機会があってもいいのかなと考えている。来年度は 3 年目を迎えるが、この 2 年間の成果と課題を踏まえ、更に充実させていきたいと考える。

【引用・参考文献】

- 1) 谷川 忍他 (2000) : 小学校特殊学級における IEP に関する一実践、情緒障害教育研究紀要、第19号、PP.107-116
- 2) 谷川 忍他 (1999) : 小学校特殊学級における A くんとの関わり、情緒障害教育研究紀要、第18号、PP.101-112
- 3) 畑中雅昭他 (1998) : IEP, TEACCH プログラムの手法を用いた「家庭での指導」と「一人でべんきょう」の実践、情緒障害教育研究紀要、第17号、PP.79-90
- 4) 太田昌孝・永井洋子編著 (1997) : 自閉症治療の到達点／自閉症治療の到達点②認知発達治療の実践マニュアル（自閉症の Stage 別発達課題）、日本文化科学社
- 5) E. ショプラー・佐々木正美監修 (1996) : 自閉症の療育者、財団法人神奈川県児童医療福祉財団
- 6) 安田生命社会事業団 (1995) : 個別教育計画の理念と実践

資料 1 : 個別の指導計画の一例

○本児の実態

H1.12.27	第5学年	交流学級(未定)	WISC-R :FIQ42	VIQ47	PIQ47	自閉的傾向
<p>自閉的傾向と中等度の知的発達の遅れが見られる。多動で興味関心の偏りはあるが、体験を通して様々なことを学ぶことができる。終わりや先の見通しが立つ様な状況では落ち着いて過ごすことができる。いつもと違う状況や予定していた時間とのずれなどがあると、泣き叫びパニックになるようなことも見られていたが、最近では 1 対 1</p>						
<p>現状がある。学習面では、個別学習の取り組みによって課題に対して集中する姿勢が見られてきている。漢字にも少しずつ興味を持ち始め、字の書き方も丁寧になってきた。家庭では、ビデオ視聴や CD の音楽鑑賞など、自分の好きなことがあり、楽しむことができるが、逆の面ではそれが強いこだわりとなり、興味や関心の広がりを阻んでいると思われる。</p>						

◎長期目標と短期目標

R	・突発的な変化にも落ち着いて対応できるようになる。		
O	・コミュニケーション能力を伸ばす。(意志の疎通・相互の働きかけ)		
の	・周りが見て奇異に思われる行動をしない。		
課	・落ち着いて行動する。(突然飛び出したり、走り回ったりしない)		
題	・体を動かす習慣を付ける。		
	学 習	日常生活・習慣形成	学校行事・その他
1	・数の概念形成 ・指示されたことを正確にやりとげ	・突然立ち上がったたり、飛び出した りしない	・各行事を通して交流学年の人と適切な交流ができる

間 の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・読み書きできる漢字を増やす ・体験したことを順を追って話したり文章に表す 	<ul style="list-style-type: none"> ・突発的な変化にも、説明を受けることによって落ち着ける ・人の嫌がることをしない ・学校学級の決まりを守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・係や委員会など、自分の役割を最後まで責任を持ってやりとげる
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・数の概念形成 ・出来事や動作を短文で表す 	<ul style="list-style-type: none"> ・先の見通しを持つこと ・人の嫌がることをしない ・集団行動のきまりを守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会に意欲的に参加する ・指示通りに行動する ・宿泊研修を楽しむ
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・短文をつなげ作文を書く ・簡単な計算（加法減法） ・工作や作業（指示理解） 	<ul style="list-style-type: none"> ・人の嫌がることをしない ・ひも結び（蝶結び） 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同宿泊研修に意欲的に参加する ・学芸会での自分の役割をしっかりとやりとげる
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・朗読 ・出来事を作文や発表で表す 	<ul style="list-style-type: none"> ・人の嫌がることをしない ・電話の対応の練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業式にきちんと参加できる

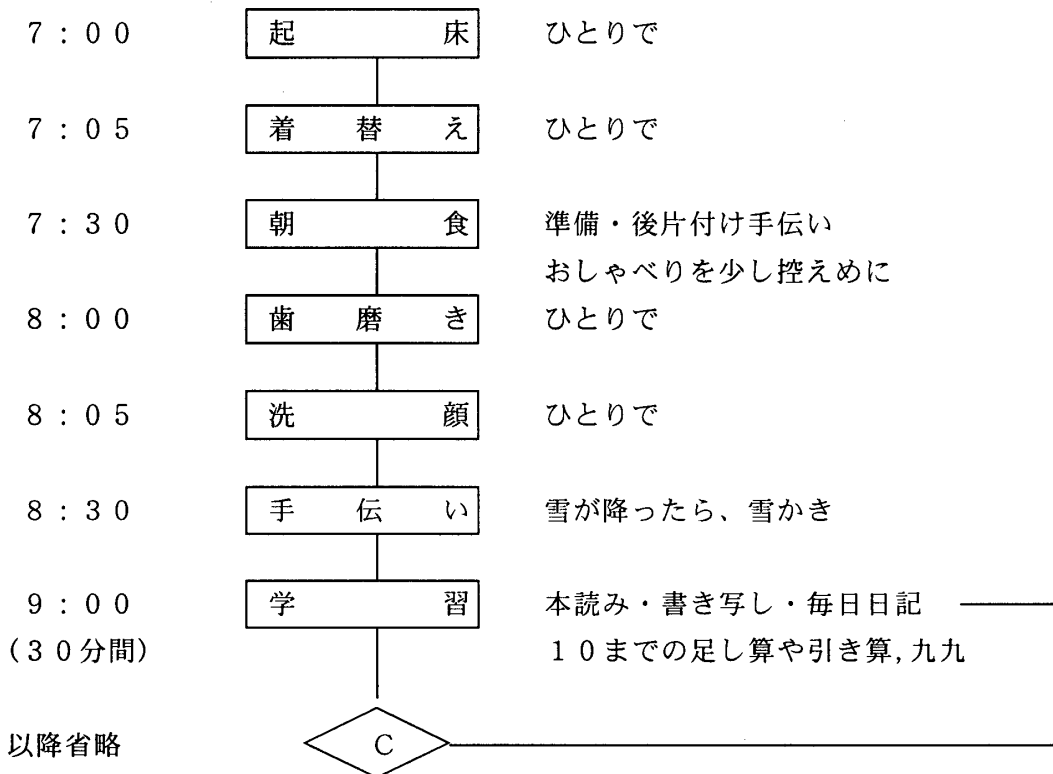
○家庭や地域での課題

家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレのマナー ・空白の時間の扱い（趣味の充実） ・家での手伝いの充実
地 域	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の安全な通行 ・外で体を動かす機会を増やす

資料 2：冬休みスケジュールの一例

2000年度 冬休みスケジュール表

5年 A, A



資料 3 : 生活単元学習「楽しいおやつづくり」との関連 : 『ひとりで勉強』で個々に身につけさせたいスキル

各教科との関連	担当(個別)			谷川				土谷				植竹										
	Y. H	I. S	R. M	T. S	R. O	H. M	E. O	M. S	S. I	A. Y	Y. H	I. S	R. M	T. S	R. O	H. M	E. O	M. S	S. I	A. Y		
・ 絵と文字のマッチング ・ 文字の練習	材料・道具の確かめ	③仮名練習	③絵と文字	②レシビ作り	③レシビ作り	①レシビ作り		③実物と音声のマッチング	②レシビ作り													
	①手順をまとめる																				③手順をまとめる	
《国語》	メッセージカード			○カードを書く																	○カードを書く	
・ 目と手の協応 ・ 手指の巧緻性	型抜き	①型抜き						①型抜き														
	カードを切る	○カード切	②カード切	○カード切																		○カード切
《図工》	紙容器を折る	○容器作り	○容器作り	○容器作り	①容器作り	○容器作り	③容器作り	○容器作り														○容器作り
	リボン結び	②玉結び	①玉結び	③蝶結び	○蝶結び	②蝶結び		○玉結び														○蝶結び
・ 具体物と数字のマッチング ・ 時間の概念 ・ はかりの見方	ラッピング(数量)	②ラッピング	①ラッピング		②ラッピング	②ラッピング	①ラッピング	②ラッピング														①ラッピング
	時間			○時間	○時間																	○時間
《算数》	はかりの見方			①小麦粉を量り取る		○小麦粉を量り取る																①小麦粉を量り取る